

平成29年度
岡山県内におけるカワウ繁殖状況調査報告書
(コロニー規模調査)



日本野鳥の会岡山県支部

平成29年 6月

岡山県内における繁殖状況調査

I. 目的

カワウは、近年個体数・分布域が増加・拡大し、採食地である河川・湖沼において人間活動との軋轢が増加している。しかし、過去において著しく生息数が減少し絶滅が危惧されたこともあることから、生息数調査及び繁殖状況調査、行動実態調査等を行い、県下の生息実態を明らかにして人との共生を図る基礎資料とする。本調査はその第3期目である。

II. 調査方法

1. 調査時期

カワウの生息状況のモニタリングのため、コロニー（集団繁殖地）における営巣数調査を5月上旬から5月下旬に行った。

2. 繁殖状況調査（コロニー規模調査）

コロニーにおいて、そこから巣立つカワウの若鳥の数を調べることも個体数の増減を予測する上で重要なことである。中国四国地方では12月初旬から7月ごろまで繁殖活動が見られる。

営巣数調査はコロニーにおいて繁殖行動が確認されてから、約70日に一回巣を数えることによって、その場所での繁殖ペア数を推定することができる。カワウは産卵から巣立ちまでの期間が最短でおよそ70日である。この間隔で調査を行えば、重複や数え漏らしなどを少なく抑えることができる。

カワウの巣のステージ（産卵後の日数）は、大まかに外見から判断することができる。D段階、E段階のヒナ数を調査することで巣のヒナ数の推定ができる。

繁殖段階の判別

1： 空巣

2： 親 造巣行動

3： 親 ディスプレイ その他

4： 親 抱卵 親：ステージA

胸から腹をしっかりと巣に押し付け、尾羽が背に対して垂直に上に向くという典型的なポーズをとるので、判定しやすい。

抱卵日数は25～28日である。

5： 親 抱雛 親：ステージB

6： ヒナ 孵化後1週間くらいまで . . . ヒナ：ステージB

ヒナが小さいうちは、抱卵と区別が難しい、餌やりを始めたころから観察していると判別はできる。孵化後47～60日で巣立つ。

- 7 : ヒナ 孵化後3週間くらいまで・・・ヒナ：ステージC
ヒナの翼の羽軸が少し出てきている。
- 8 : ヒナ 孵化後5週間くらいまで・・・ヒナ：ステージD
ヒナの翼の産毛が抜けるが、頭に産毛が残る。
- 9 : ヒナ 巣立ち間際まで・・・ヒナ：ステージE
ヒナの身体全体から産毛がなくなる。
(繁殖状況調査用紙は資料ページに添付参照)

調査時の調査表への観察状況表示方法

- ① コロニーの調査では、巣の状況を観察してゆきますが、その時の親の欄には親の状況を記号化して表記してゆく。
T : 巣の近くに親が立っている。
(繁殖段階ランク : 2 又は 3)
次の3つの表示は、巣に座っている親の尾の角度や体の沈み具合で見分ける。
S : ただ座っているだけ。(繁殖段階ランク : 3)
A : 抱卵中 ((繁殖段階ランク : 4 又は 5)
B : ランクBのヒナを抱卵中
- ② ヒナの欄には、上記のヒナ：ステージ表記を記載する。
- ③ 樹種、巣高の欄はカウントした場所が分かるようにできれば記載する

III. 調査結果

繁殖状況調査(コロニー規模調査)を5月上旬から5月下旬の間に実施した。

県下でコロニー数は、吉井川水系で7箇所、旭川水系で5箇所、高梁川水系で4箇所そして海岸域で3ヶ所 合計19所確認できた。そのコロニーで営巣していた巣数は868巣を確認した。(表-1)

ただ、5月の繁殖状況調査では、営巣木および周囲の樹木の葉が茂り、確認できなかった巣も多数あったものと思われる。

営巣の状況では、県南部では、すでにヒナが巣立ちをして空巣も多数有った。

一方県北部では、ちょうど抱卵期に入った状況のコロニーが目立った。

県南部と県北部では営巣に入る時期に3~4ヶ月のずれがある。

吉井川水系の営巣数：217巣、旭川水系の営巣数：399巣、高梁川水系の営巣数：115巣、海岸域の営巣数：137巣であった。

営巣数868巣の内上位5位のコロニーは下記のとおり。()は去年の巣数

- ① 岡山市中区中島 三野公園前(旭川) 268 (59)、② 岡山市東区川口 中州(吉井川) 130 (123)、③ 岡山市北区御津野々口(旭川) 74 (45)、④ 倉敷市通生 葛島(水島灘) 73 (90)、⑤ 勝央町福吉 切池(滝川) 57 (44)

今年は、コロニー内の樹木の伐採や銃による追い出し等があり、去年の順位と大きく変動している。しかし、逆に営巣数は去年(727巣)の1.2倍に増えている。

表-1

カワウのコロニー状況調査結果表（平成29年度）

吉井川水系						
No.	河川名	コロニーの所在場所	調査日	営巣数	備考	H28年
1	吉井川	岡山市東区川口 中州	5月1日	130		123
2	金剛川	和気町藤野	5月16日	4	本年新規営巣	—
3	吉井川	和気町塩田 備作大橋下	5月16日	5	本年新規営巣	—
4	吉野川	美作市尾谷	5月27日	10	大規模伐採	7
5	吉野川	美作市岩辺	5月27日	8	本年新規営巣	—
6	滝川	勝央町福吉 切池	5月26日	58		44
7	倭文川	津山市桑下 坂見面池	5月26日	3		22
吉井川水系での営巣数				217	7ヶ所	196

旭川水系						
No.	河川名	コロニーの所在場所	調査日	営巣数	備考	H28年
1	旭川	岡山市中区中島 三野公園前	4月20日	268		59
2	旭川	岡山市北区御津野々口	5月5日	74		45
3	旭川	岡山市北区建部町吉田	5月31日	7		8
4	旭川	美咲町江与味 旭川ダム	5月21日	35		27
5	旭川	真庭市落合町法界寺	5月18日	15		11
旭川水系での営巣数				399	5ヶ所	150

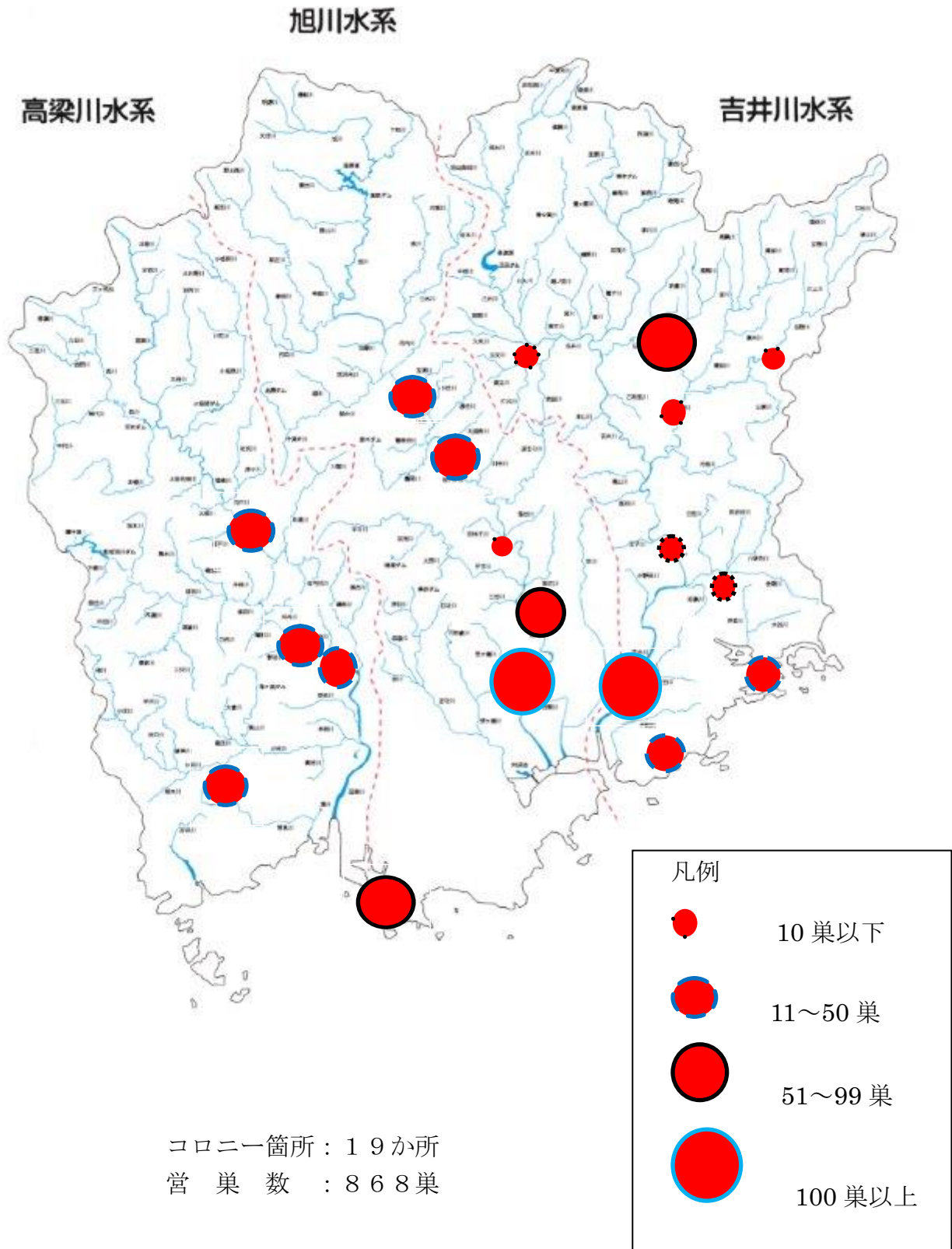
高梁川水系						
No.	河川名	コロニーの所在場所	調査日	営巣数	備考	H28年
1	高梁川	総社市福谷	5月17日	21		8
2	高梁川	総社市槻	5月16日	40	銃追い出し有	60
3	高梁川	高梁市中井町西方	5月17日	33		37
4	小田川	井原市木之子町	5月6日	21		22
高梁川水系での営巣数				115		127

海岸域						
No.	河川名	コロニーの所在場所	調査日	営巣数	備考	H28年
1	海岸域	備前市 片上湾 前島	5月2日	35	小規模伐採	64
2	海岸域	倉敷市児島通生 葛島	5月3日	73		90
3	池	岡山市東区千手 千手大池	5月1日	29	大規模伐採	100
海岸域での営巣数				137		254

岡山県内における5月のカワウの営巣数				868		727
--------------------	--	--	--	-----	--	-----

図一1

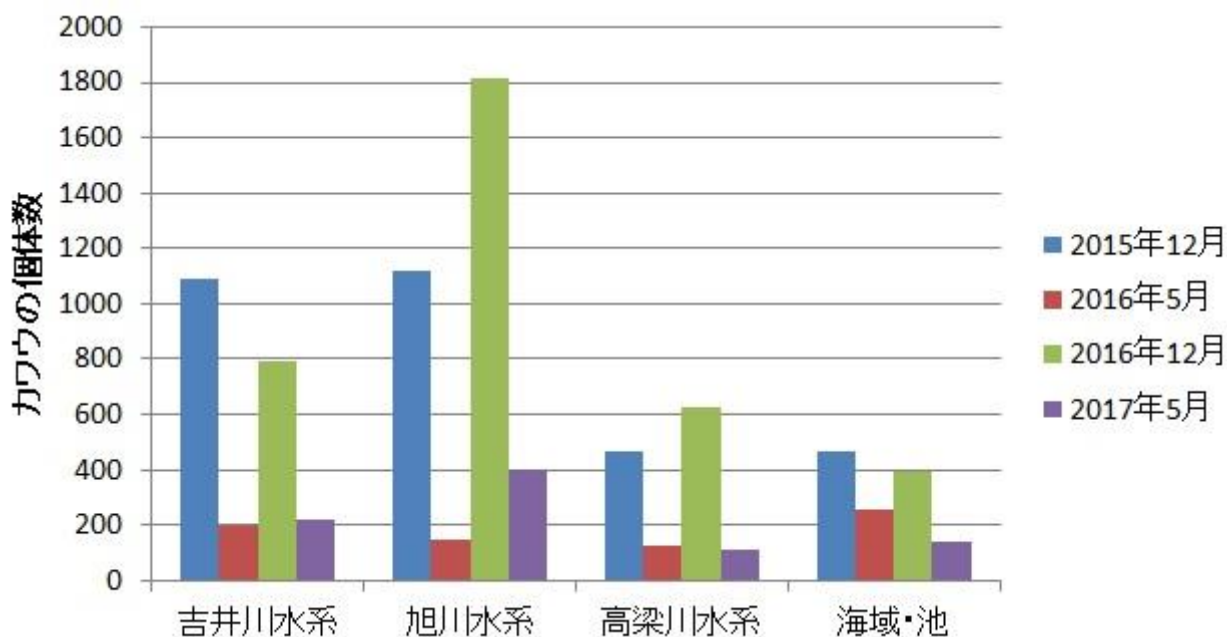
平成29年5月 カワウの営巣場所（コロニー）



IV. 考察

1. 昨年と比較して、吉井川水系において新たなコロニーが3ヶ所増えた。
本年新たに増えたこれらのコロニーは、きわめて小さなコロニーであった。
2. コロニーにおいて、樹木の大規模伐採箇所が2ヶ所、小規模伐採箇所が1ヶ所あった。
また、銃器による追い出し作業が行われた箇所が1ヶ所あったようである。
これらの作業により分散が起こったことも考えられる。
さらには、カワウは追い出しや迫害に遭うと危機を感じて繁殖力が増すとも言われており、本年の営巣数が昨年の1.2倍になっていることにも影響をしていることが考えられる。
3. 吉井川水系、高梁川水系の営巣数は、昨年と大きな差が見られない。大きく増減しているのは海岸域と旭川水系である。海岸域の大幅減少は、千手大池の太規模伐採と片上湾前島の樹木伐採による追い出しの結果と思われる。
他方旭川水系の2.7倍近い増加は以上である。他所からの追い出しに有った個体が移動してきたとも考えられる。その要因について図-2で考えてみた。

図-2：各河川における各年の冬期カワウ生息数と夏期の営巣数

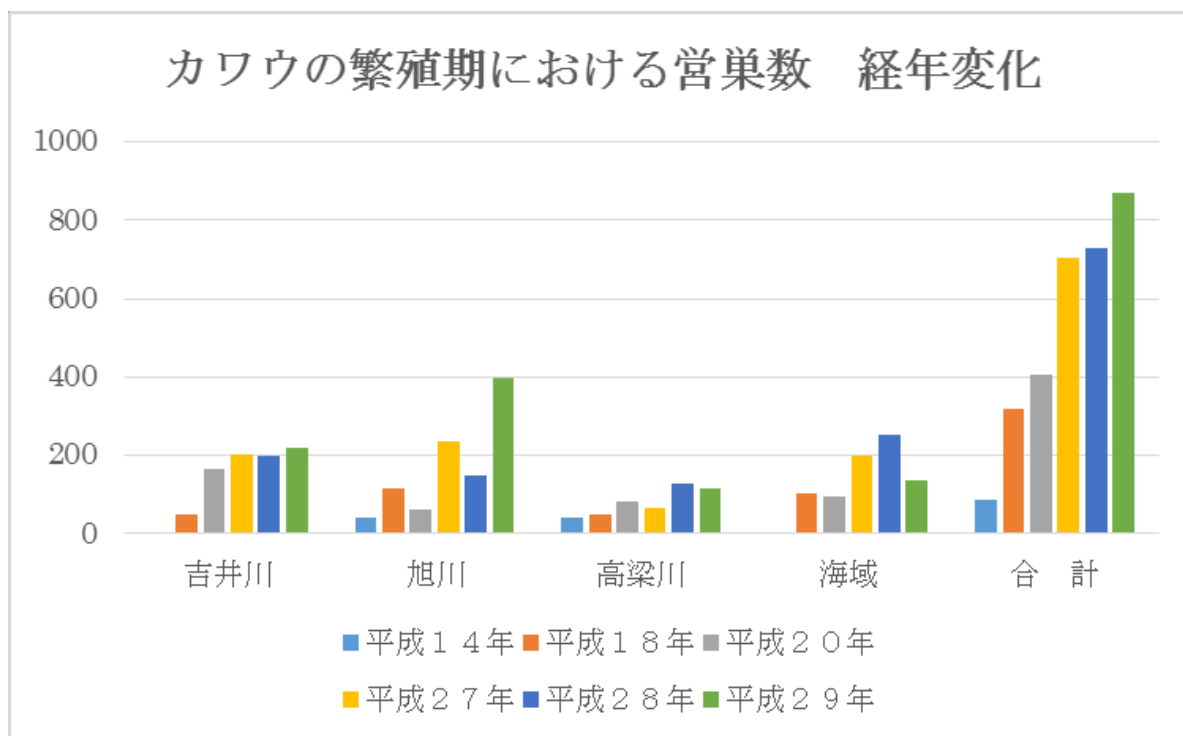


上図を見ると、旭川水系の2016年12月に生息していた数が他の河川よりも圧倒的に多いことが判る。その多くが旭川水系において、特に三野公園前の中州で営巣に入ったものとも推測される。ただ、2015年12月よりなぜ2016年12月の個体数が増加したのかは推測できないが、安心して生息できる広い場所が確保されているのではないかとと思われる。今後この場所をどのように対処してゆくか考えなければならぬ場所と思われる。

V. カワウコロニーの経年変化

今までに得ているデータを河川ごとに経年の変化について図 - 3 に示す。

- ・吉井川水系は、大きな変化も無く 200 羽弱で推移している。
- ・旭川水系は、年により大きな変動をしている。これはコロニーの追い出し等の作用が影響しているものと思われる。
- ・高梁川は、3 河川の中で羽数も少なく 100 羽前後で安定しているように見える。
- ・海岸域は変動も見られるものの、かなりの営巣数を確認している。今後この区域をどの様に活用して行くかも考慮しなければならない場所と思われる。
- ・県内全体の動向として増加傾向にあることがうかがえる。



完